

附属やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標:発見し、はくくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よりよい未来を共に創り出す人間

第2号 2022年6月23日(木)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

ウサギとカメ

山口大学教育学部附属山口中学校長 前原 隆志

ウサギとカメの歌を知っていますか。

♪ もしもしカメよ、カメさんよ、世界のうちにおまえほど
歩みののろい者はない どうしてそんなに のろいのか ♪
ずいぶんと、腹の立つものの言い方ですね。もっと不思議なのは、
ウサギとカメは、いったい何語で話したのでしょうか。ウサギとカ
メが話せるわけはありません。つまりこれは、本当にはあり得ない
お話、寓話(ぐうわ)だということが、最初からわかります。



「ウサギとカメ」は、イソップ物語のひとつで、日本には室町時代以降に伝わったとされています。江戸初期に発表された翻訳本『伊曾保(いそほ)物語』によって広まり、明治時代の教科書にも収録され、普及していきます。

2番の歌詞では、「なんとおっしゃるウサギさん、」とカメさんが返答します。ちゃんと敬語で返すあたりが、カメさんの人柄?、いや亀柄を感じさせます。そして、むこうの小山の麓までかけくらべすることになるのですね。

お話は、このあとウサギが昼寝している間に、カメが先にゴールした、という結末になるわけです。

普通、このお話は、「才能があっても努力を怠ると、こつこつ努力した人に負ける、」という人生の教訓として使われています。

私は、コロナの時代にあって、このお話からもう一つ、学ぶべきことがある、と気付きました。それは、ウサギとカメでは、見ているところが違うということです。

ウサギは、のろまなカメを見て、昼寝します。ところが、カメはウサギなんか、ぜんぜん見ていません。向こうの山を見ている。ウサギが早かろうが、寝ていようが、自分は向こうの山の麓に行くんだ、という強い気持ちが伝わってきます。

だれかと比べて、「自分は不利だ、」と考えないところが、カメの強さの秘訣なのです。

私たちは、目標として、「試合で優勝する」とか、「コンクールで金賞を取る」とか、よく口にします。しかしそれは、すべて、だれかと戦ったり比べたりして、勝ち上がっていく場面を想定しています。

そういう試合の場面がなくても、相手がどうであれ、自分が理想とするプレーを決めたいとか、こんな作品を創り出したいとか、そうした目標こそが大事だと教えてくれているような気がします。

うさぎとかめのお話は、だれも傷つけないよう動物の姿を借りながら、実は人生の真実を語りかけてくれます。

私たちも、人と比べず、焦らず、あきらめず、自分の力を信じて歩み続ける、そうした学校でありたいと思います。

【附属幼稚園】

5月30日(月)から1週間、保育参観を実施しました。保護者の方々に日常の子どもたちの園生活の様子に直接触れていただきました。保育後は参観された保護者と担任とでミーティングの時間をもち、子どもたちの遊ぶ姿を伝え合いながら、友達関係やその年齢ごとの育ちの様子を共有しました。

6月7、8日で、1年生と年長児クラスとの今年初めての交流を行いました。1年生は運動会を終えた余韻でリレーに取り組んでおり、その体育に年長児を招いてくれました。幼小ミックスで5つのグループをつくり、みんなでアイスブレイクをした後、グループごとにリレーをしました。小学生がリードをとって走る順番やルールを共有して何度もリレーを楽しみ、最後にグループ対抗で競争しました。リレー後は振り返りを行い、「楽しかったからまたしたい」「今度は幼稚園でしたい」など次の交流につながる声が聞かれました。



保護者と保育者で子どもの育ちを共有しました。

1年生が「やり方を見ておいてね」と見本を示し、一緒に楽しみました。

「楽しかった。またしようね。」
親しくなった振り返り。

【附属山口小学校】

5月19日(木)からフレンドリータイムの取組が始まりました。フレンドリータイムとは、いわゆる縦割り班活動で、6年生がリーダーシップを発揮しながら1～6年生が一緒になって遊びます。異学年での交流の楽しさや仲間と協力することの大切さを感じ、より豊かな小学校生活を送ることができるようにしていきます。

5月21日(土)には運動会を行いました。徒競走や玉入れ、綱引き、綱奪い、リレーなど、仲間と励まし合いながら、最後まであきらめずに全力で取り組む姿が見られました。中でも6年生は、進んで応援団を結成したり、自分の係に責任をもって取り組んだり、コロナ禍でも工夫して最高の運動会を創り上げようと努力しました。この主体的な取組が、中学校での学びにつながっていくことと思います。



縦割り班でめあてを決め、楽しく遊びました

相手が取りやすいように考えることも大切です

気持ちを一つにしてゴールめざして走りました

全力で取り組んだからこそ最高の運動会ができました

【附属山口中学校】

5月30日(月)から学園祭の準備のための学習が始まりました。本校の学園祭は、9月第1週の土日の2日間で文化祭と体育祭を実施します。第1回は、学園祭を国際博覧会に例え、教員が「見せるプレゼンテーション」の実例を演じながら、生徒へ提案しました。第2回は、学園祭で身に付けたい人間力について考えました。生徒が自己分析をする為に用いたプリントの中にある8つの力は、附属山口小学校が「創る科」で育成したものです。中学校



自己分析の8つの力

①具体化(抽象化)する力	⑤問題を見出す力
②比較する力	⑥情報を収集・処理する力
③批判的思考力	⑦他者に伝える力
④関連付ける力	⑧先を見通す力

では、自分の変容を認識し、さらなる成長につなげていきます。

第3回以降は、生徒が中心となり、縦割り班で作ったチームの企画の立案を行っていきます。そのときに、キーワードとなるのが、「人を招く、人が笑顔になる、人に衝撃(感動)を残す」の3つの「ショー」です。これから、どのような企画が生まれるのか、生徒がどのように成長していくのか、目が離せません。